



保二小の矜恃

No. 3

西東京市立保谷第二小学校
校長 神山 繁樹

【Back to the basics 自分を見つめ直す】シリーズNo.1

“いきぬく” 知力の鍛錬

教育目標 「考える子」 を見つめ直す



1 文字と言葉から捉える物事の本質

まず、『かんがえる』と辞書を引くと、「考える」の他に、「勘える」「稽える」とあります。3つの漢字の意味を調べてみると以下の通りです。

- ◇思考、熟考の「考」
かんがえる。曲がりくねって奥までかんがえる。あれこれと突き詰める。
- ◇勘案の「勘」
かんがえる。奥深く突き詰める。心の底で直覚的にびんとくる心の働き。
- ◇稽古の「稽」
とどめる。躊躇う。寄せ合わせてかんがえる。比べる。

次に、『かんがえる』の意味を紐解くと以下の通りです。

- ①実情を調べ正す。吟味する。
- ②糺明(キウメイ)(罪や悪事を問いただし、悪いところを追及して明らかにすること)して罪する。
勘当(カンドウ)(罪をかんがえて法に当てはめて処罰すること。叱ること。)する。
- ③思考を巡らす。あれこれと思量し、事を明らかにする。思案する。
- ④(易などによって)事を判断する。
- ⑤学ぶ。学習する。

こうやってみると、「考える子」を育む奥深さを感じます。授業で教師が大事にしていることは、学習内容に応じて子供が「考える場」と教師が「教える場」を意図的・計画的に設定することです。

2 「考える」授業

子供は、大いに学び、大いに遊ぶことで、毎日必ず何かを獲得しています。人は、発した言葉で品性が定まり、行動の仕方資質・能力が身に付き、追求・追究することで人間性が磨かれていくのです。だから、今、自分が学び身に付けるべきことは何かを、よく“かんがえ”，自分の言動や感情表現を自分自身でコントロールできる保二小の子供にしたいです。

先週20日(水)は「小中連携の日」。

柳沢中学校の授業参観及び教員間で情報共有する時間はとても有意義でした。本校と柳沢中学校との連携は、このエリアの児童・生徒の人格形成及び心身の健全育成のために今後一層強めていかねばならないものです。

その点は、保護者・地域の方々も協同・協働するところです。

16日(土)の柳沢中学校運動会当日朝5時半には、我がホニホニおやじの会メンバーが校庭整備に汗を流していました。メンバーが保二小を飛び出し柳沢中学校のために“かんがえて行動した”ことで、当日、中学生が躍動する姿を見ることができました。と同時に、大人も保二小から柳沢中まで一貫してかかわることで、保二小柳中エリアの教育力が高まる姿を見ることができました。

さて、20日。私は、柳沢中学校の授業(教師と生徒の姿)を見て、知識・技能をもっているよりも、より豊かで多様な生活体験、生活と関連付けた学習経験を通して身に付けた資質・能力がなければ、新しい問題解決に挑戦する授業で活躍できないと改めて確信しました。

保二小の全教育活動を通して、柳沢中学校と《一貫した》教育の軸を創ることが重要課題です。

授業。45分の授業で、必ず子供は変容します。それが、できるだけポジティブなものであってほしいのですが、例えネガティブなものでも本人の自覚を促し、次の学習に向かうべき方向を指すことが教師の仕事です。常に、その先にあるものを教師と子供自身が見定めているのであれば、多少の回り道も大事な“学び”であり、必ず中学校で役立つと“かんがえる”ことができます。

「ホニ学のススめ」を基盤とした授業

保二小の授業。学校公開でお子さんの様子は分かると思いますが、指導の意図をよむことはなかなか難しいことと思います。

そこで、1学期授業の一場面を「ホニ学のススめを基盤とした授業」と題してHPにアップしているので、ぜひご覧ください。

保二小教員のねらいや指導の工夫をよみとっていただけると嬉しいです。保二小頑張ってます!!

